

巻頭のことば

菊井維大先生は、昭和三十四年立教大学法学部の創設に参画され、爾来研究教育に専念されること十年、昭和四十四年定年退職され、その後も、特別専任講師としてひきつづき民事訴訟法の講義を担当されてきたが、昭和四十九年三月をもつていよいよ本学の教壇を去られることになった。

先生は、本学部の創設以来、かげになり日向になり学部の研究教育のために尽力され、昭和四十年には学部長となり、学部発展の基礎を固められた。ところが、在任中、松下正寿総長が昭和四十二年二月東京都知事選に立候補のため突如辞任され、先生は急遽そのあとをうけて総長事務取扱いに就任された。まことに多難な局面に処して先生は誠実にして無私、緻密周到な処置をもつてこれを乗り切り、みごとに仲継ぎの任を果たされたことは、多くの立教人がいまなお感銘措くあたわざるところである。

先生の、多年にわたる民事訴訟法学界、ひいては日本の法学界に対するご貢献は、いまさら冗言を費すまでもないことであるが、そうしたご功績とご尽力とを背景に、学部がもつとも苦難にさらされたときにも、人知れぬ配慮をもつて私どもに限りない励みを与えて下さったことを、感謝の念をもつて私は想起せずにはいられない。

法学部同僚一同、切なる心をもつてこの記念号一巻を先生に捧げるゆえんである。

希くは先生にはご健康を保たれ、ながくわが法学部のために、ひいては立教大学のためにかわれぬご鞭撻

をたまわれんことを。

昭和四十八年十一月

立教法学会会長

神島二郎